

パネルディスカッション「再発肝癌の治療選択」

司会：小尾俊太郎 先生（帝京大学ちば総合医療センター内科）

飯島 尋子 先生（兵庫医科大学内科学肝胆膵科）

【司会の言葉】

ウイルス肝炎に対する抗ウイルス薬の普及により背景肝治療が進み再発抑止が図られているが、再発制御困難な症例は少なくない。一方で生活習慣病に関連した肝癌は増加の一途をたどり、その再発抑止策も不確定である。よって今日でも肝癌の異時性多発再発は大きな問題であり、再発治療の如何で肝がん患者の予後が大きく変わると言っても過言はないと思われる。

本パネルディスカッションでは議論に方向性を持たせるため、再発肝癌の治療選択から4つのテーマを挙げた。

①どこまで切除で攻められるか？（最も根治性が高い治療を最大限に使うには？）

②分子標的薬、免疫チェックポイント阻害薬への切り替えのタイミングは何時か？（既存治療からの切り替えのタイミング、TKI から TKI、IO への切り替えのタイミングは？）

③積極的治療の対象となる肝機能はどこまでか？（各種治療法で予後改善が得られると思われる限界は？）

④集学的治療、新規治療の進歩は？

それぞれのテーマについて、再発「肝癌治療のベストプラクティス」を求めて活発な議論を行い現時点での答えを出したい。多くの先生方からの演題応募を期待します。